

布施工科高校で出前講座

3年生 33人が参加

鉄筋の結束体験や圧接の実演見学

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は11月19日（月）、東大阪市の大阪府立布施工科高等学校で出前講座を行いました。鉄筋工事の役割や重要性とともに、ものづくりの楽しさを知ってもらおうと組合が社会貢献活動の一環として2年前から実施しているもので、今年度は同校で6校目の開催となります。

当日の出前講座には建築設備系建築システム専科の3年生33人が参加。講座に先立って挨拶した戸田裕雄副理事長は「皆さんの身の回りにある鉄筋コンクリート構造の建物はすべて鉄筋が骨組みとして入っており、これらは職人たちが一つひとつ結束して造り上げたものです。今日の講座を通じてものづくりに対する職人の思いと、ものづくりの楽しさを感じ取ってください」とその成果に期待を込めました。また、同校の阿部政之校長も「君たちがこれまで学んできたことを踏まえ、実際に現場で働いている職人さんの指導を受けることで五感をフルに使い、より次元の高い内容を身に付けてほしい」と述べました。

この後の講座では、生徒たちが4班に分かれて高さ3.6mの柱と、長さ4mの地中梁の結束作業を講師の指導を受けながら真剣に取り組んでいました。最初は慣れない手つきでハッカーを使っていた生徒も時間が経つにつれて結束のスピードも速くなり、楽しそうでした。また、この間には班ごとに圧接作業の実演を見学するとともに、ガス圧接の原理や継ぎ手工法についても講師から説明を聞きました。

作業が終わった後、戸田副理事長が「皆さんがこれから建築や土木の現場に出た時に、職人たちが水平・垂直・平行に気を付けながら結束していることを思い出してもらえれば幸いです」と講評しました。生徒の代表が「現場作業に近い経験ができ非常に貴重な体験となりました。後輩のために来年以降も出前講座を開催してほしい」と謝辞を述べました。

また、当日は愛媛県鉄筋業協同組合からも吉岡通伸理事長ら4人が見学に訪れました。

今回の出前講座で組合から参加したのは次の通り（敬称略）。

・森山直樹氏（城東鉄筋）、恵谷信氏（恵谷鉄筋）、田村晃一氏（田村工業）、長木鉄次氏（長木鉄筋）、辻本浩二氏（辻本鉄筋工業）、山村修一氏（関西スチールフォーム）

